

博物館 だより

No.60
2015.3.18

CONTENTS

研究と解説	2
活動報告	3
山と川から	4
ニューストップクス (10月~2月)	5
砂防のページ	6
イベント案内	8



エゴノキの果実を啜るヤマガラ
(何をしているのかな？ 詳細は4p参照)

立山黒部ジオパーク

38億年×高低差4000m！体感しようダイナミックな時空の物語

立山黒部ジオパークは、富山県東部の9市町村の地域、およびその前面海域の富山湾や日本海を対象エリアとして、2013（平成26）年9月27日に日本ジオパークネットワークに正会員加盟を果たしました。当ジオパークの目的は、このエリアを形作ってきた約38億年の歴史をたどることが出来るさまざまな地質遺産、高低差4,000mの地形・地質に依存した環境、生態系、人文史、文化・産業などについて、秘話をひもとくような知的探究心の育成と充足ができ、楽しみ、そして楽しむことのできる空間と活動を創出し提供することです。

時空の道標たちが示す大地の記憶

この地域の大地の特徴は、ジオパークのテーマに体现したように、豊かな地質・地形の多様性に裏打ちされた悠久の地史を内包していることです。

黒部市宇奈月で、日本の大地がさまざまな地史を経て組み合わさってきた最初期の記憶を残す、ジルコンという鉱物が発見されています。一見小さな砂粒にしか見えませんが、約38億年前という日本最古の鉱物です。その小さな存在は、この地域がどのような地勢・環境に生まれ、変遷を辿ってきたかを知るうえで、時空の道標ともいえる大切な役割を果たしたのです。

このジルコンを筆頭に、地域から発見されているさまざまな年代・種類の鉱物・岩石・地質の中に、そして地形そのものにも大地の記憶が刻み込まれて大地のダイナミックな営み、さまざまな環境を経てきたことを物語っています。

多様な環境と生物相

日本海沿岸という地理が加わって作り出されている気候は地形と相まって、生物相、環境の多様性にも繋がって固有の水循環システムを構築しています。

対馬暖流を越えて来る季節風が、北アルプスに多降雪地帯を生み、雪解け水は北アルプスの険しい山腹を駆け下り、世界有数の急流河川と広大な扇状地群、豊かな湧水帯を形成しています。立山連峰は、氷河期の遺存種であるライチョウの国内最大生息地になっています。さらに現存する氷河を含む雪氷圏の維持や、魚津や入善に古代の樹林を埋没林・海底林として保存し、富山湾で出現する蜃気楼にも関わっていると考えられています。

富山湾は、深海底から海辺に至るまで天然の生け簀すと呼ばれるほどに豊かな種類と数の生物相を誇っています。

シロエビ、ゲンゲ、オオエッチュウバイなどの魚介類を育み、その水は魚介類の養殖や食品加工にも利用されるようになりました。

人と大地の繋がり

その一方で、この絶え間なく変化し続ける大地と環境は、人や生き物が暮らすには厳しさをもって応えることもあります。

北アルプスで深成岩として世界で最も若い80万年前の花崗岩が露出していることや岩稜の峻険さが、際だった変形の大きさと真新しさを物語っています。そしてそこは巨大な崩壊地形、立山カルデラに代表される火山活動や活断層など現在進行形の地殻変動と厳しい高山気候や風化・侵食作用に由来する独特の景観を形成するという、創造と破壊が激しくせめぎ合う舞台なのです。

先人は人知を超えたこの自然の営みに、独特の自然観と思想を醸成し、畏敬と畏怖の念をもって接してきました。険しくも真夏に雪を残すその姿の神秘性に神が宿る大地として山岳信仰が興り、それが近代登山の発展へと繋がり、今も人を魅了してやみません。人々は厳しさの裏に相反した豊かさを合わせ持つ自然の縦深性を古くから理解していたのです。

今日、この地域の発展は、大地の営みなくしては果たし得ませんでした。先人たちが厳しい自然と対峙しつつもその「活かされてきた」恩恵を理解し重く受け止めてきたからこそ今も自然に対する強い畏敬の念が失われず継承され、人々を突き動かす原動力となっているのです。

（学芸課 丹保俊哉）

特別展

「立山温泉をめぐる人々と歴史」

－10月4日(土)～12月27日(土)

険峻な山岳にありながら、江戸時代より交通の拠点として賑わってきた立山温泉。

今でこそ立ち入ることが制限されている立山カルデラですが、古くから胃腸病等に良く効く温泉として、その名を馳せていました。現在は浴槽跡を残すのみで、当時の賑わいを思い起こすことは難しいですが、最盛期にはたくさんの人々が訪れました。

展示では、時代とともに移りゆく立山温泉の様子や、



当時の従業員の方からお聞きした話、また立山温泉が登場する文献などを展示しました。

期間中4,793人の方にご来館いただきました。

(学芸課 是松慧美)



写真展

「素晴らしい自然を」

－1月10日(土)～2月11日(水)

日頃から調査・研究や自然観察会の解説などで「自然」に接する機会が多い富山県自然保護協会の会員や博物館の学芸員が感じた自然の素晴らしさや大切さを撮影した秀作56点を展示紹介しました。

県内を中心に国内ばかりで無く海外での作品もあり、関心を高めていました。山岳の景観や動植物、特に昆虫・鳥類などの何気ない姿、日頃から自然に深く関わっておられるからこそ撮影できた作品など、立ち止まっていつまでものぞき込んでおられる来館者の姿が印象的でした。(学芸課 菊川 茂)



ヤマガラとエゴノキ

博物館の周りに植えられている木の一つにエゴノキがあります。昨年の10月ごろ、数本あるエゴノキをヤマガラが何度も訪れていました。ヤマガラという鳥は秋から冬にかけて冬期の食料として木の実を運んで土中や樹皮の隙間などに隠す習性があります。どうやら博物館横のエゴノキも好んで利用しているようで、実がなくなるまでひたすら通っていました。

エゴノキの実には果皮に有毒物質であるサポニンを含んでいます。昔は毒を利用して魚を麻痺させて捕獲する毒流し漁にも用いられていたようです。ヤマガラもこの実に毒があることはちゃんと理解しているようで、ちぎった実を両脚で押さえて嘴で何度もつつき、毒のある果実の部分を取り除いて中の種子だけを持ち去っていました。

他の鳥があまり食べないエゴノキの実に目を付けて



春に一斉開花するエゴノキ。
花には多くの虫も集まる (写真はハナムグリ)

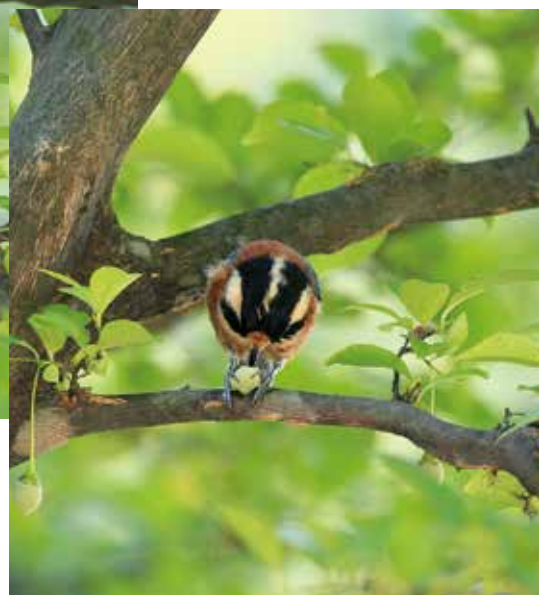
巧みな技術で食料として利用するヤマガラ、いっぱい運んでちょうだいと言わんばかりに大量に実をつけるエゴノキ、巧妙な自然界の仕組みを間近に見ることができました。 (学芸課 澤田研太)



エゴノキの果実を取り外し



お気に入りの場所で体勢を整えて…



両脚で押さえて器用に果皮を取り除きます

ニューストピックス (10月~2月)

フィールドウォッチング

「秋の有峰と常願寺川砂防探訪」

— 10月19日(日)

飛越地震を引き起こした国指定天然記念物の「跡津川断層露頭」で断層や湖で堆積した地層などを見学していただき、地震についての解説を聞きました。午後



は大多和峠で中川與一の文学碑を見学し、有峰の人々の暮らしに思いを馳せました。この日は晴天で大多和峠から薬師岳も望



大多和峠から薬師岳を望む

め、参加者の皆さんも喜んでおられました。その後、有峰から小口川添いに戻り、横江頭首工を見学。ここで取水した常願寺川の水は岩峠寺の分水工で左岸と右岸に厳しく分水していることなどの解説を聞き、人々の水へのこだわりを感じました。

(学芸課 是松慧美)

フィールドウォッチング

「立山の雪を体験しよう」

— 1月31日(土)、2月8日(日)

まる一日を使って雪を「知って」雪を「楽しむ」このイベント。当日はたくさんの雪に恵まれ、博物館の周りで約170cmの積雪がありました。午前中は博物館の周辺で雪の性質を学びます。ペットボトルを用いた雪の結晶作りは大人も子供も大熱中。また玄関横の雪の壁の観察では、雪の層を調べることで冬の間の天気等を知ることができることを学びました。

午後からは粟巣野スキー場周辺の森でスノーシューを履いてトレッキング。今年は本物の猟師さんに同行



してもらい、雪の森でのウサギの探し方を伝授してもらいました。みんなで息を潜めて歩きながら、ドキドキのハンター気分でウサギの足跡を追いかけました。フカフカの雪は歩いているだけでも大冒険で、スノーシューが初めての人も存分に楽しむことができました。

(学芸課 後藤優介)

体験学習会を終えて

平成26年度の体験学習会ですが、7月2日～10月17日までの間に33回実施し、1,043名の方にご参加いただきました。参加者数は過去4番目の多さです。現地解説を担当していただいた立山カルデラ解説員、砂防ボランティア協会会員、TJSSE(立山神通砂防スペシャリエンジニア)の方々のほか、多くの関係者のご協力により無事終了することができました。

平成26年度は、新バスコースの文化遺産コースで、噴泉の先の湯川沿いの遊歩道を歩く新ルートが開通しました。「立山温泉周辺の地形がよく分かった」と大変好評でした。



残念だった点は人気見学地の一つ白岩下流展望台が落石のため見学できなかったことです。落石対策工事が完了しましたので、平成27年度からは再び見学できるようになります。

(学芸課 福井幸太郎)



安政の大災害を伝える

立山カルデラ展示室の奥に、「安政の大災害シアター」があります。ここで紹介されている安政の大災害は富山県史上最大の災害のことです。1858（安政5）年に飛越地震と呼ばれる大地震が起こり、立山カルデラの大鳶山・小鳶山が崩れ、大量の土砂が常願寺川の上流で堰き止め湖を作りました。この堰止め湖は2度にわたって決壊し、大土石流となって富山平野を襲い甚大な被害を受けました。この地震と2度の土石流を地元では「安政の大災害」として今でも語り継がれています。

このシアターは、安政の大災害の体験をつぶさに書きとめた「地水見聞録」を基にして作られたアニメーションで、「安政の大災害」の全体像を分かりやすく紹介しています。

当館へ来館された時は是非、このミニ・シアターをご覧になってください。その後、3D映像の「大地のドラマ」や「崩れ」を見ていただければ、より安政の大災害の様子をご理解していただけると思います。

さて、このミニ・シアターに登場する昇平堂寿楽斎という人物。実は「地水見聞録」を書いた著者でもあります。本名は、瀧川海寿一瓢^{かずひさ}といい、元富山藩士で代々800石の幹部級藩士の家柄でした。災害当時は家督を息子に譲って隠居の身であったようです。

遡ると瀧川海寿一瓢は、戦国武将・瀧川一益^{かずやす}の子孫であるということが分かりました。

瀧川一益は織田信長の家臣で、柴田勝家や羽柴秀吉と並ぶ五大将の一人です。しかし、「本能寺の変」で信長



安政の大災害シアター

が明智光秀に討たれてから順調な人生が一変し織田家における地位は急落します(信長の葬儀の際には、席も与えられなかったとも伝えられています)。

その後、一益は柴田勝家に与^{くみ}して豊臣秀吉との戦端を開きましたが敗れ、所領を全て没収された後に越前で蟄居^{ちつきよ}(江戸時代、武士に科した刑罰の一つ。自宅や一定の場所に閉じ込めて謹慎させたもの)します。再起のチャンスが訪れることもなく、晩年は不遇であったと伝えられています。

その子孫は、豊臣、徳川に仕えるなど激変の境遇に耐えた末に前田家へ仕えており、1639(寛永16)年には加賀藩より富山藩が分藩された時に前田利次に随身して富山藩士となり、のちに安政大災害の貴重な史料・「地水見聞録」を世に残すこととなります。

このような経歴を知りながら、昇平堂寿楽齋の語る「安政大災害のシアター」を観ると、さらに興味が持てるのではないのでしょうか。

(立山カルデラ砂防博物館前館長 今井清隆)

■安政の大災害シアター制作秘話

1975(昭和50)年に放映が始まった「まんが日本昔ばなし」をご存知でしょうか。日本各地に伝わる昔話を映像化したアニメーション番組です。

女優の市原悦子さんと俳優の常田富士雄さんの二人が、一人で何役もの声を使い分ける独特の語りを覚えておられる方も多いのではないのでしょうか。

登場人物たちも親しみのもてるイラストで描かれていましたが、実は昇平堂寿楽齋をはじめとする安政の大災害シアターの登場人物たちは「まんが日本昔ばなし」を制作したスタッフたちによってデザインされたものなのです。



災害を語る
昇平堂寿楽齋

●資料収集についてのおねがい

立山カルデラの鳶崩れが原因となった安政の大災害に関連した資料を収集しています。写真、文書、絵図等過去の様子わかる資料をお持ちの方、資料の所在にお心当たりの方は、下記までご連絡いただければ幸いです。

連絡先 立山カルデラ砂防博物館学芸課

TEL.076-481-1363 FAX.076-482-9101

1980年西大森の大転石



イベント案内 (3月～6月)

開催日	内容	会場(入場料など)
3月7日(土)～ 6月28日(日)	●特別展「北極と立山のひみつー北極科学サミット週間に向けてー」 日本ではじめて富山で開催される北極科学サミット週間(4月23日～30日)に合わせて北極と立山の氷河や生き物、気候、地形について紹介します。	当館：エントランスホール (無料)
3月14日(土)～ 4月12日(日)	●公募写真展「レンズが見た立山・立山カルデラー大地と人の記憶ー」 立山や立山カルデラ、常願寺川一帯の大地や人の営みをテーマに、魅力ある作品を公募して紹介します。	当館：企画展示室 (無料)
4月18日(土)～ 5月17日(日)	●巡回展「立山を愛した画家・大島秀信展 富山県立近代美術館収蔵作品による」 富山県立近代美術館収蔵の立山や自然にちなんだ秀作を立山登山口の当館で紹介いたします。	当館：企画展示室 (無料)
5月10日(日)	●フィールドウォッチング「春の立山・雪の大谷」 「雪の壁」を実際に訪れ、世界的な雪の量を体感しそこに秘められた情報を探ります。	要申し込み(先着順) 定員40名 参加費：4,000円(小学生2,000円)
6月28日(日)	●フィールドウォッチング「材木坂と美女平」 立山禅定道である材木坂を美女平までたどり、独特の地質や植物について観察します。	要申し込み(先着順) 定員30名 参加費：無料 ※帰路ケーブル利用の場合は運賃が必要となります

Calendar 3月から6月の休館日

※小・中・高校生の観覧は無料です。

○：休館日 赤：日曜・祝日・祭日

3

Sun Mon Tue Wed Thu Fri Sat
1 2 3 4 5 6 7
8 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21
22 23 24 25 26 27 28
29 30 31

4

Sun Mon Tue Wed Thu Fri Sat
1 2 3 4
5 6 7 8 9 10 11
12 13 14 15 16 17 18
19 20 21 22 23 24 25
26 27 28 29 30

5

Sun Mon Tue Wed Thu Fri Sat
1 2
3 4 5 6 7 8 9
10 11 12 13 14 15 16
17 18 19 20 21 22 23
24 25 26 27 28 29 30
31

6

Sun Mon Tue Wed Thu Fri Sat
1 2 3 4 5 6
7 8 9 10 11 12 13
14 15 16 17 18 19 20
21 22 23 24 25 26 27
28 29 30

【博物館 開館時間】 9:30～17:00 (入館は16:30まで)

〈編集後記〉

2月上旬、この冬最大の寒波がやってきました。富山県内各地、大雪警報が出ていましたが、ここ千寿ヶ原もたくさんの雪が積もり、博物館はすっぽりと雪景色に埋まっていました。博物館に設置された積雪深計によると積雪量は243cm。プチ・雪の大谷のような感じです。

交通案内

富山地方鉄道 立山駅より徒歩 1分
北陸自動車道 立山ICより車で40分
富山ICより車で45分



編集・発行 公益財団法人立山カルデラ砂防博物館

〒930-1405 富山県中新川郡立山町芦峯寺字ブナ坂68
TEL(076)481-1160 FAX(076)482-9100
ホームページ <http://www.tatecal.or.jp>

「博物館だより」は環境に配慮し、古紙パルプ配合率80%の紙と植物油インキを使用しています。